

検討項目①「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」～市民と行政がキャッチボールできる方法を考えましょう～
 第3回～第5回会議で検討したテーマについての各グループの意見を事務局が整理し、一覧にしたもの

区分	課題・問題点		解決策・仕組み		
	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	
市民意見	制度の周知不足【1班、2班、3班】	どのように伝えていいのかわかりづらい 市民が市の制度を知らない 制度の周知が不十分 制度を知らない	→	情報提供を充実する【1班、2班、4班】	情報提供の充実(広報、HPなど) 広報、ホームページの充実 広報、ホームページなど、広報活動の充実 市政情報コーナーなどを設置し情報提供の場の充実 市議会等の動画配信(議事録公開までに3～4か月)
	情報が不足している【1班、2班、5班】	良い意見を伝える担当窓口が分からない まちづくりに参加するための情報が得にくい 携帯版市のHPで多くの市民情報があるとありがたい 市長への手紙の設置場所のPR・各場面で困っていることに対する担当窓口の告知 何か聞きたいこと、お願いしたいことがあっても担当課が分からない 一般市民への情報提供をいかにするか		分かりやすい情報提供を行う【1班、2班】	市民生活に困ったらというときの担当窓口を書いたPR冊子を保存版の形で各戸に配布する 市役所に担当を分かりやすく表示する 広報が見つらい。情報が多い。地域版を作る
	情報が公開されていない【3班】	意見が伝わったかが分からない 情報の更なる公開と要求解決の流れの明確化(議員)個人が市へ直接申し入れを行い内容が理解できず苦勞する事が多い		積極的な情報提供を行う【5班】	広報、各集會に出向き、前向きに宣伝する
	意見が反映されにくい【2班、3班、4班、5班】	地域がまとまらなないと伝わりにくい 市民の意見が反映されない 意見を述べても思いが伝わらない 町内全体に共通しない個人意見が受け入れられない 市政懇談会に提出する問題点は、町内全体に共通しないものは上げることができない 若い新人の意見が少ない、取り入れられていない 新人の意見がとり入れられにくい たった一人の市民意見は聞いてもらいづらい 具体的な話し合いがあまり好まれない 過半数優先で物事が決まりすぎる		まちづくりに関する意見、提案を政策等に反映させる制度の整備及び充実を図る【1班、2班、5班】	出前講座の利用促進を市民へアピールする 市長への手紙の設置場所を多くする 意見を出した結果の状況を公開 個人意見も受け入れる仕組、専門家相談への補助者を設置
			→	各主体との連携を図る【2班、5班】	回覧板などを利用し、見たという印をつけてもらい、周知する 自治会長に伝えてみる 県道関係の要望は県議、市等にも通してお願いをする 現在の兄貴会では年配者が多いので新たに青年部会を設置 住民過半数意見よりも自治役員の議決決定権を優先させるよう明示する
	意見を伝える場や機会が少ない【3班、4班、5班】	意見を伝える機会が少ない 広報モニターの活用 意見を伝える場や方法が少ない(昼の時間帯の会議等)	→	直接対話の機会や場を充実する【2班】	自治会の声が市に届く仕組作り(市長との対話機会の充実など) 何年越しの要望も有り今年出向く 自治会長以下役員で市長、部署に出向く
			→	情報共有／意見や情報交換の開かれた場と機会の提供【4班】	総合計画の柱(項目)に沿った情報交換、話し合いの場を設ける ワークショップの機会を増やす
	意見の偏り【1班、2班】	批判的な意見が多い 意見を出す人が非常に少ない	→	積極的な情報収集／意見等を的確に把握する【1班】	年代別にアンケートを実施して市民の意見を集約する 声なき声を市政に反映させるため幅広い意見を積極的に収集する

区分	課題・問題点		解決策・仕組み		
	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	
	回答が得られない／回答が遅い【4班、5班】	殆どが回答が得られない 返答までの時間がかかりすぎる 福祉面での提案をしているが、経済情勢や予算面からトータルは協賛。実行の進捗がない 担当者が分かったと言っても1年間も実行がなかった 水害対策の要望(降雨の排水路の拡大) 水害対策。長い間事例が出る都度、当局にお願いしてようやく解決	→	説明責任を果たす、意見や要望等の取扱いについて公表する【1班、4班】	意見に対する市の説明をきちんと行う 市民からの提案・意見の内容、それに対する回答を掲示していく 提案でも実行困難なものもあり、結果としてダメなとき、その場合の説明をしてほしい
	意見・要望のシステムが整理されていない【3班、4班、5班】	市民の要請や要求も取り上げるシステムが整理されていない クレームと意見との見分けるライン クレマー、モンスターペアレントについて、考えを整理すること 個別に意見や提案してもタテ割組織で、ヨコ連携の改善が必要と思う 行政内で縦割り感覚の強いところもあり、もっと横通しして欲しい 要望の伝達ルートが明確でない。はっきり示して欲しい	→	ルールの明確化【3班】 適切な評価やフィードバックを図る【1班、3班】 分かりやすく機能的で効率的な行政組織を編成する【2班、3班、4班、5班】	市民の要求解決のためルール、システムを確立する 住→小地域→大地域→市の窓口へ 市の窓口→担当部→自治会長→小地域→住民 年代別(テーマ別)の委員募集と意見の集約、提言に対してのフィードバックの必要性 既存の制度の見直し 相談窓口を設置 意見の受け付け窓口を1つにする 行政の受付窓口を1本化 市民→行政への意見窓口の一本化 市役所内の改革(最初に対応した者が最後まで) メール等を上手く利用し、休日や時間外に相談を受ける部門を設置
参画	参加の場や機会が少ない【2班、4班、5班】	全ての人が参加できない 市民総参加 燕市防災訓練は、参加自治会が多いため、毎年参加できない	→	参画機会の保障／参加の場や機会の創設【1班、2班】	事業などの「企画立案」「実行」「評価」の各段階にみんなが参加できるようにする→行政の透明化 参加の場づくり 参加する上でのきっかけ作り 若い人も参加、興味を持てる行事をたくさん試みしてみる(コンテンツ、年齢対象別新聞)
	参加者不足【1班、2班、3班、5班】	利用者が(参加者)が少ない 自治会、まち協のイベントへの参加者が少ない まち協の集会、会議への参加者が少ない 各団体のリーダーの参加が少ない 参加者が少ない。参加者を募る効果的な手段が分からない 参加者不足 参加者が少ない、増えない 新庁舎建設の説明会に市民の参加が少なかった(現在は定期的全世帯にチラシで周知)			
	参加者の偏り【1班、2班、3班、4班】	顔ぶれが同じで参加者が少ない まちづくりに積極的に参加してくれる人の固定化 若い人の参加が少ない 決まった人がいろいろな行事に参加するので広げることが大切だが… 各自治会で参加対象を絞り込んでいる(世帯主が参加対象の部分がある) 自治会の行事、若い方からもっと参加してほしい 委員等を公募しても集まらない。メンバーが同じ 各種会議で年齢差での物の考え方の相違			
	活動資金の不足【2班】 活動の場の不足【1班】	活動資金の調達が困難。活動の低下 まちづくりに対する活動の場(PR)の提供	→	活動に対する支援【2班】	まち協をサポートする担当者(地区別)

区分	課題・問題点		解決策・仕組み		
	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	
	役職の集中／負担の集中【2班、3班、4班】	市民の中にはおえらい方がいくつも役を引受けておられ、初めての人の声は通りにくいのではないかと 役員になり手が少ない 役員の職が集中してしまい、肉体、気持ち的に疲れる 活動終了後のお世話がたいへん。(クリーン作戦後のゴミの整理) 会議等の集約化	→	地域活動、市民活動を推進する【2班】	予算の中での懇親会、慰労会の予算をある程度認めてもらいたい メリットをいただく 活動資金不足解消はその内容を広報、新聞に載せ賛同してくださる方を募る 役員の成り手不足を解消するに当たり、役員になった方にポイントを与え、何らかのメリットを設ける
	地域差の問題【2班】	地域差が大きい			
	各主体の協力・連携不足【2班、3班】	各種団体の連携不足 それぞれの団体で似たような行事を行っている 行政職員からの協力不足	→	各主体との連携を図る【1班、5班】	広報紙だけでなく自治会で寄り合い的なものも必要(成人、社会人全員が町内会で参加できるように) 各団体の参加の要請(安全協会、PTA、民生委員、老人クラブ、青少年等) まち協の改善、会議に一般参加を強く呼びかける 各自治会の活動を通して市の行事に参加を呼びかける
	理解が得られない／意識不足【1班、2班、3班、5班】	参加に対して市民の理解が得られない 地域活動の内容が住民の方に浸透していない 活動への理解や市民意識不足 自主防災の必要な事が各自自治会の人に分かっていない 活動に対する理解不足 地域の決め事についての認識不足 まち協への未理解問題 まち協は一般市民には関心がない		→	意識の改革／意識の醸成に努めること【1班、2班、3班】
	参加しにくい／環境が整っていない【1班、2班、3班、4班、5班】	行事などを通して参加者が、来てよかったと思わせることが大切 参加出来るように参加しやすい雰囲気をつくる必要がある 市全体でまちづくりに参加しやすい雰囲気づくりをする必要がある 行政は敷居が高い 勤務者(サラリーマン)は土日などしか休めないで、会議などが月～金の昼間にあるので、まず参加できない 雰囲気や時間帯が悪い 平日の参加は難しい 市の会議を土日や夜に開催し、市民が参加しやすいように 仕事優先のため市への協力ができない市民が多い	→		参加の仕組みづくり／参加のルールづくり【1班、2班、4班、5班】
	市民参画の仕組みが整っていない【4班、5班】	市民参画要望されている内容がジャンル毎に整理されたら分かりやすい 今まで行政に参加しなかった人への行政参加の仕組みづくり 同じことの繰返しが好まれません 妥協策の方が進んでしまう 生活に根差した条例のため市民の一部に怠惰発生の危険			
	方針が決まってい動かさない【4班】	行政主催の説明会に出席しているが殆どが決定済近く時間的に無理な状況下			

区分	課題・問題点		解決策・仕組み	
	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したも	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したも
	情報不足【1班、2班、3班、4班】	他の行事と重なってしまい、参加することができない 各種行事の日程が重なる 情報が少ない 学習の機会が少ない 情報提供する側の都合で情報提供している 議会の動画	→	情報の共有【4班】 市民参画のための施策内容がジャンル別に整理されていると協力しやすい いろいろなところで行っている活動を整理してまとめる 携帯等を活用したボランティアネットワーク作り
	制度の周知不足【1班、3班】	実際にまちづくりに参加するための手段、方法が良く分からない まちづくりに参加したくてもどのように、どうやって参加したら良いか分からない 周知不足		情報提供を充実する【3班、4班】 情報提供の仕組みの充実 情報提供 部署→市民(子供、お年寄り)という風に変える ホームページの充実化
	情報が公開されていない【4班】	全面的な情報開示をしない		分かりやすい情報提供を行う【3班】 情報を分かりやすく提供する。専門用語の羅列をさける
協働	情報不足【4班】	市からの情報提供が少ない(助成金など) 市や学校等が希望するボランティアの内容が見えにくい	→	積極的な情報提供を行う【4班】 燕市の行政情報、人づくり情報等を携帯に提供する インターネットによる情報公開
	関心の不足【1班】	市民の(活動)関心度希薄		情報の共有【2班、4班】 各団体の行事は、事前に行政に報告する形にして重ならないようにする わかりやすい情報交換の仕組み作り(市民と行政双方向)
	各主体の協力・連携不足【1班、2班、4班、5班】	自治会がまち協への参加協力に欠けている 青少年健全育成市民会議が吉田地区の活動が活発で他の地区ではあまり活動していない。全市でまとまらないか 福祉面での協力要請に応じている。但し手際は上手いとは言えない(組織面) 市職員が自治会に話に来てほしい 市役所が自治会に話に来てほしい 自治会役員と行政のつながりがまばら 各団体がバラバラ 町内班のつながりがとぼしい 商店街の衰退問題	→	学習の場や機会の創設【1班】 自治会連合会への勉強会実施(リーダーのレベルアップを図る。地域格差をなくすため) 先進的に活動している地区の見学、学習会の開催
	協働のルールや仕組みが整っていない【2班、4班】	行政主導となりがち 役員が充て職でPTAを退任すると市民会議の役員も交替となる 学校区毎のボランティアチームを考えたらまとまりやすい 高齢化対策でも考え方を工夫してもらえれば良いと思うが(敬老会、長寿祭)		協働事業の推進【1班、2班、3班、5班】 協働で行う事業を市民と行政が双方向で提案できるようにする。 産、学、官、民の連携を図る 広報、チラシ作成時に市民の方からも参加してもらう 各種団体の連携を図る(スポーツ、文化、生活、子供 等関連の団体) 青少年健全育成市民会議は生涯学習課を中心に他の組織や団体と連携を図り、全市的な取り組みとする 最低必要人員は関係者への参加をお願いする 市職員を交えて行う自治定例会を定期的に設置する 自治役員以外の行政対応の自治専門委員をつくる
	交流の場や機会の不足【1班、2班、3班、4班】	合併して3年、もう少し地域交流のしやすい方法はないか工夫する 行政の行事には参加が少ない 人材は多くあると思うが、これを表に出せる情報の手立て NPO等の情報交換交流の場が少ない	→	各主体の交流の場の提供及び促進【1班、4班】 ワークショップの活用を広げる(交流の促進) 情報発信、交流の場としての(仮)市民活動支援センターの設置 ボランティアセンター(仮称)の設置

区分	課題・問題点		解決策・仕組み	
	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの	整理後のカテゴリ	各グループから挙げた個別意見をカテゴリ別に整理したもの
	活動資金の不足【1班、3班、4班、5班】 活動拠点がなく【3班】 活動の停滞【3班】	活動するための費用が必要 資金不足 人が動くとお金がかかる。資金が足りない 保健センター事業なのに予算がない(使えるお金がない) 自己負担(参加団体)で要請にすべて対応できない 事業資金調達不足 万本さくらを目指しているが、補助金を減らされ、資金繰りが苦しい 市の財政悪化で補助金の削減でいろいろな面で不便を感じる	→	支援制度の拡充【1班、2班、3班、4班、5班】 行政支援(お金、物、人)を必要に応じて行う 交流の場の提供や支援制度の拡充 まちづくり協議会の予算をもう少し考える。各行事計画に対し予算付けする 活動団体への行政の支援 地域活動資金補助 活動資金を出してもらう 経費削減の中で行政効果を拡大するノウハウを作成する 市民の安全安心のための生活を推進する行政と財源(税)を認識する 市の支援体制の確立(補助金等) 行政による財政支援 イキイキまちづくり活動を手本としてNPO法人の情報や活動場所をすることにより市との一層の協働を図る
	目的や目標が共有されていない【1班、4班】 指針やマニュアルが整備されていない【1班、2班】	自治会ごとに温度差がある 協議会として行政とコンタクトを取ってやっているがポイントがずれる場合がある まちづくり協議会で他の地区との考え方が違い、やりにくい まちづくり協議会のあり方と市との協働 具体的に何をするかビジョンが見えない 軸がぶれないまちづくり めざすものがはっきりしていないといけない 家庭教育、地域教育に取り組む施策があって欲しい	→	まちづくりの目的、理念を共有する【1班、4班】 各主体の自主性、自立性を尊重する【2班、5班】 自治会等の運営・活動のマニュアルの整備 まちづくり協議会の目的、理念、役割を全協議会で共有する まち協13団体の代表者が集い、連携し、共通で取り組む課題や個別で取り組む課題など話し合い、連合会などと一緒にまちづくりを進める 中心市街地「まち協」を別枠な特殊なまちづくり地区と規定する 2ヶ月に1度くらいの町内班の定期寄合いの義務化
	役割や責任が不透明【3班、5班】 人材が育たない／人材不足【3班、4班】	市民の協力の限界と行政の限界の整理 個人的な問題と地域の問題の分けがたいへんである 自治体主体から自治会主体への切り替えはどうする 親子夫婦別居問題	→	各主体の役割や責務の明確化【1班、3班、4班、5班】 リーダーの育成(人づくり)の推進【1班、4班】 行政、市民、団体などの役割分担を明確にする 行政・市民・事業所の役割を明確にする 協働の仕組みと効果、結果のルールを確立する 良いまちづくりに市民が一人称で取り組む 市職員の地域活動への積極的参加 親の介護は子が第1責任者を明確表示 各団体に共治の仕組みをもたせるため政治・行政がつなぎ役を果たす リーダーの育成 リーダー、コーディネーターの養成講座 まちづくり、人づくりのため具体的施策ビジョンを示す 人材バンク

まとめ 検討項目① 「市民参画と協働によるまちづくりに必要なこと」

「市民の声がまちづくりにより反映されるためには」

- 市民の声がより反映されたまちづくりを行うためには、市民の声なき声を拾い上げることが重要であり、仕組みづくりが必要となる。
- 市は分かりやすい情報提供や制度に関する周知を様々な機会を捉えて行っていくことが重要。
- 意見がどう取り扱われたのかについて公表するとともに説明責任を果たしていくことも必要。
- 市民が、事業などの企画立案から実行、評価の各段階に参画する機会を保障するとともに、市民の皆さんの意見や提案を市政に適切に反映していく手法について常に検討していく必要がある。
- 市民の声をまちづくりに反映させるため、さらに情報公開(広報、HP、市政情報コーナー等)や公聴制度(パブリックコメント、市長への手紙、総括的な窓口の設置等)の周知と充実を図っていく必要がある。また、それらの声がどう扱われたか、結果を公表することが大切である。
- まちづくりにおいて地域住民と行政の間をつないでいる自治会の役割は大きく、その役割をより明確にしなが、三者の意思の疎通が円滑にいくような仕組みを整えていく必要がある。
- 個人意見も受け入れる仕組みなど、意思決定へ参画する仕組みづくりが重要。

「市民参画(企画立案、実施、評価の各段階への参加)をより推進するためには」

- 市民参画をより推進するため、みんなが市の情報を共有できるよう、市政運営を透明化していくことが必要。またその情報も正確でわかりやすいもので、なおかつ欲しい情報を誰でもいつでも入手できることも大事。
- 市民参画や協働の必要性をわかりやすく市民にお知らせして、より多くの市民からまちづくりに関心を持ってもらうことが必要。
- 参加しやすい環境づくりを考えていくことも必要で、学習機会の提供やまちづくりへの参加のきっかけづくり、参加しやすい雰囲気づくりなど、参加の場の創設が重要。
- まちづくり協議会などの市民活動には、行政の支援が必要であり、地区単位での活動をサポートする担当職員の配置や活動資金の助成などが求められる。また、市民活動をリードする役割を担う人材の育成が重要であり、誰もがリーダーになりやすい環境づくりにも努めていく必要がある。
- 若い人をはじめ、様々な年代や職業の方々からまちづくりに積極的に参画してもらうためには、会議や行事の開催日時を参加しやすい設定にするとともに、年代に応じたイベント内容の検討等も必要である。さらに、職員自らも地域活動や各種行事への積極的な参加が求められる。
- 市民参画を推進するため、市民が行政課題や市の施策について正確に情報を得られるよう、行政情報について学習する機会を設ける必要がある。
- 情報伝達の仕組作り…官からの情報発信だけではなく、民からも情報を出さなければならない。官民がお互いに情報提供を積極的に行い、情報の共有、情報公開請求、情報交換など市民参画の仕組を整備することが重要。
- 市政への参加やまちづくり協議会への参加など、市民参画に対する理解や関心を高めることが重要。

「市民と行政の協働(連携・協力)のまちづくりをより推進するためには」

- 産、学、官、民など各主体の連携を図るため、それぞれの役割分担を明確にして対等な立場で協力し合うことが必要。
- お互いを理解することが必要で、各主体同士の交流や情報交換の場の提供などの行政支援の充実も必要。
- 協働事業を市民と行政が双方向で提案できる仕組みなど、新たな取り組みを行っていくことも重要。
- 地域のレベルアップを図るため、リーダーの育成を図る活動が必要である。
- 地域の特性を大切に、育てていくことが必要。
- 協働によるまちづくりは大変重要であり、各種団体と市が共同で行っている事業の事例もあるが、さらに団体同士の協力、全市民的なネットワークの構築を行いながら市と連携を強めていく必要がある。
- まちづくりは、全て行政主導で進めることなく、各種団体などのそれぞれの特色を活かし、市民とともに協働で行うことが大切である。
- 市民、行政、コミュニティが連携、協力していくため、それぞれの役割分担を明確にする必要がある。
- 市民活動団体が協力、連携していくには、行政の支援(情報提供、人的・財政的支援)も必要である。
- 協働の推進だけでなく、行財政改革など自治体運営、まちづくり協議会の運営の見直しや、市民と職員の意識改革も必要となる。
- 人、物、金の仕組作り…人・物・金の仕組を共有した、ぶれないまちづくりが重要。補助金等がないと何事もできないということではなく、民でもやれることは自分たちでやり、その中で、足りない部分を官が補って物事を行っているということ。
- 官民のキャッチボール…まちづくりは一人ではできない。相手がいないとダメ。いろんなキャッチボールがあり、同じレベルでなくても良い。それた球も受け止め、取ってあげることが重要。
- NPO法人の情報伝達の場や活動場所を作ることにより市との一層の協働を図ることが重要。
- 協働のまちづくりを推進するため、行政による財政的サポートも必要。